

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 木1	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	経済と経営(現代日本経済) Economics and Business (Current Japanese Economy)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 田口 信夫 / Eメールアドレス: / 研究室: 経済学部本館605 /TEL: 820-6349(直通) /オフィスアワー: 木曜日 15時以降			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい: そのときどきの世界経済の構造変化をふまえながら、その変化に日本経済がどのように対応してきたのか、歴史的観点から授業をおこない、理論と実証にもとづいて経済現象の本質を正しく理解する力を涵養する。</p> <p>授業方法: テキストはとくに用いないで、レジュメや新聞の切り抜き等、資料をできるだけ多く用いて、現実の政治や経済の動きに即した授業をおこなう。</p> <p>授業到達目標: 過去および現代の世界と日本の政治・経済の動きと関連性が理解できる。</p>			
<p>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要)</p> <p>第1回 産業革命とグローバリゼーション 第2回 両大戦間期の世界経済 第3回 第二次大戦後の世界経済(パックスアメリカーナの形成) 第4回 第二次大戦後の世界経済(パックスアメリカーナの崩壊) 第5回 第二次大戦後の世界経済(現在の米中経済関係) 第6回 戦後日本経済の歩み(経済復興と高度経済成長) 第7回 戦後日本経済の歩み(オイルショックと産業構造の転換) 第8回 戦後日本経済の歩み(日米貿易摩擦の時代) 第9回 戦後日本経済の歩み(バブル経済の発生と崩壊) 第10回 戦後日本経済の歩み(小泉構造改革について) 第11回 現在の世界経済の動向と日本(米国住宅バブルの崩壊とその影響、その1) 第12回 同 その2) 第13回 同 その3) 第14回 今日の日本と東アジアの経済関係 第15回 まとめ</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	参考書: 橋本寿朗『戦後の日本経済』岩波新書		
成績評価の方法・基準等	定期考査70%、レポート20%、授業への貢献度10%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			